

子どもと地域の交流が未来に繋がるように ～ 柳生小学校 ～

仙台市立柳生小学校は、仙台市太白区の南部に位置し、周辺には住宅地のほか、田畑が広がっています。柳生小学校では、このような環境を活かし、地域との協働により様々な活動を行っています。その中から、2つの活動取材しました。

1つ目は、「なんでも探検隊柳生あそび塾」です。「なんでも探検隊」は、毎年3年生を対象に行われており、4～6年生は「なんでも探検隊 OB」となるそうです。今回は3年生の子どもたちが、地域の老人会「柳生南かやの木会」の方々(今回の師匠たち)と、4チームに分かれてグラウンド・ゴルフを行いました。

グラウンド・ゴルフを始める前に、子どもたちは今回、「話を聞く」、「仲良くする」、「スティックを振り回さない」の三つのルールを決めました。

グラウンド・ゴルフが始まると、子どもたちはルールのとおり、師匠のアドバイスをよく聞き、チームメイトを「がんばれー!」、「入れー!」と応援しながら、仲良く体を動かしていました。

師匠たちは、「やればやるだけ上手くなっていた」と今回の活動を振り返るとともに、「上手くできたことも、上手くできなかったことも経験。この経験を今後活かしてほしい」と子どもたちに伝えていました。



子どもたちにアドバイスをする柳生南かやの木会の方



最後はみんなで師匠たちへ「ありがとう」を伝えました

この日も活動を見守っていた放課後子ども教室コーディネーターの石橋さんは、「地域の方々との交流を通じて、子どもたちに優しい気持ちを育みたい。高学年は低学年に対して優しく接し、低学年は優しい高学年に憧れ成長する。そんな素敵な関係性を築いていきたい。今の子どもたちが大人になっても柳生地区で、自分が経験したことと同じように、その時々の子もたちとの交流をつないでいってくれたらうれしい」と語ります。



子どもたち一人一人に感想を聞き、達成した目標を褒める石橋さん

2つ目は「学童農園の活動」です。5年生の子どもたちが、阿部さん（地域の方）の田んぼをお借りして、田植え体験を行いました。

子どもたちは、全身泥だらけになりながらも、初めての体験に一生懸命に取り組み、上手にできた時は、友達同士で「上手く植えられたね!」と褒め合うなど、終始笑顔があふれていました。また、「地域の人が色々わしく教えてくださったので上手に植えられました」という感謝の声もありました。



初めての田植えに取り組む子どもたち



子どもたちの活動を温かく見守る阿部さん（左）

黒田校長は、「石橋さんの言うような、高学年と低学年の関係性を作ることを最大のテーマとしてずっと取り組んできた。これは、学校だけでできるものではなく、地域だけでできるものでもない。学校と地域が足並みを揃えて取り組んでいくことが重要だと思っている。コロナ禍で交流が難しい時期もあったが、地域の方々と一緒に考え、できることを続けてきたことが、今の活動に繋がっている。地域の協力に感謝するとともに、改めて地域の力の大きさを感じている」と語ります。



柳生小学校 黒田校長

地域の方々の協力で子どもたちは様々な体験をすることができています。その体験の中で、子どもたち自身が試行錯誤しながらも一生懸命に取り組む姿勢が、お互いを認め合うきっかけになり、子どもたちの自己肯定感や相手を思いやる心の醸成につながっているように感じました。柳生小学校と地域の活動はこれからも続いていきます。

※ 柳生小学校のその他の特色ある活動の様子



子どもたちに大人気の「柳生・西中田キャンドルナイト」の活動です。毎年11月に、柳生小学校の校庭に数多くのろうそくを灯し、地域の方々とともに美しい夜を演出しています。

関連リンク:柳生小学校の HP

はこちらから

